

2021年7月29日

## 労ペン・日本労働遺産・申請書

申請番号2

(作成：労働遺産認定PT)

申請の対象	
<p>○登録内容：日本の近代的労働運動発祥の地に関する記念碑と遺構</p> <p>○認定対象</p> <p>① 日本労働運動発祥之地「石碑」</p> <p>② ユニテリアン協会「惟一館」（初期労働会館）の煉瓦塀の一部と煉瓦</p> <p>○認定要件</p> <p>・労働遺産としての石碑および遺構</p>	
<p>○認定対象の所有者・所蔵先等</p> <p>・所在地：東京都港区芝2-20-12 日本労働会館（友愛会館）敷地内</p> <p>・所有者：一般財団法人日本労働会館 代表者：理事長 宮本礼一 氏</p> <p>管理・連絡先は上記会館8階・友愛労働歴史館（館長：徳田孝蔵 氏）</p> <p>Tel：050-3473-5325 Email：<a href="mailto:yuairodorekishikan@rodokaikan.org">yuairodorekishikan@rodokaikan.org</a></p>	
申請の趣旨	
<p>▽東京・三田に明治時代の半ばに設立された基督教ユニテリアン協会・惟一館（初期労働会館）は、日本の社会主義運動、労働運動を支援したことで知られる。1912年（大正元年）には、この場所で電気工や機械工など労働者ら14名と、当時教会で雑誌の編集や労働者倶楽部を主宰していた青年クリスチャン鈴木文治によって、わが国労働運動で初めての全国組織としての「友愛会」が創立された。惟一館は、その活動拠点として後に日本労働会館となり、今日にまで引き継がれ日本の近代的労働運動発祥の地とみなされている。</p> <p>▽友愛会は、労働組合非合法の時代に多くの労働者の支持を得て組織を拡大し、大正10年に日本労働総同盟（総同盟）と改称した。以降、政府・資本家の激しい攻勢の中、神戸の川崎・三菱両造船所争議や千葉の野田醤油争議など歴史に残る争議を戦い抜いた。その後も、幾度の組織統一・分裂を経験する一方で、軍部ファシズムの台頭を背景とした産業報国運動の下で解散を余儀なくされたが、最後まで労働組合主義の原則を貫き、この理念と運動は戦後労働運動の再生・発展へ多大な影響を与えた。</p> <p>▽労働運動発祥之地「石碑」は、これらの運動の歴史と伝統を継承する証として、1978年友愛会創立66周年を記念し（財）日本労働会館と（株）友愛会館が同地に建碑したもので、現在は、同地に建て替えられた新友愛会館の敷地内に移設・管理されている。そこには、惟一館の遺構である煉瓦塀の一部が保存されている。これらは、激動する社会のなかで、労働や生活をはじめ将来に対する不安感が増大している今日、労働運動の歴史と伝統を正しく認識し、理解を求め・広めるためにも重要な意義を持つものであり、わが国の労働遺産に相応しいと考える。</p>	
申請内容の現地確認の概要	
<p>・認定対象遺産の現地確認は、日本労働会館・友愛労働歴史館による案内を受け実施済である。</p> <p>・本申請の趣旨、および添付の補足資料は、友愛労働歴史館が収蔵している文献・記録・写真等、ならびに労働運動史の諸資料を踏まえて、労働遺産認定PTが取り纏めたものである。</p>	
申請対象の現況(アクセス情報、写真等は別途添付)	<p>①本遺産の実物は、一般財団法人・日本労働会館（友愛会館）敷地の一角（緑地帯）に設置・管理されており、誰でも容易に現認することができる。</p> <p>②本遺産に関する来歴や写真は別添資料の通りであるが、その論拠となる友愛会の歴史等の多くの資料（書籍・写真など）は、同会館8階の友愛労働歴史館に収蔵・管理されてい</p>

	<p>る。また、主要な資料は、常設展「友愛会・総同盟（戦前）を中心とする日本労働運動の100年余」として一般展示されており、容易に閲覧できる状況にある。</p>
<p>労使団体、行政、市民等の評価</p>	<p>・日本の労働運動は、明治・大正・昭和とその時々の政治体制・社会状況等を背景に、労働争議や組織の離合集散等多くの苦難を乗り越え、今日の連合にその歴史と運動が引き継がれてきた。その大きな潮流の一つとして、友愛会の歴史と運動は、労使団体、行政、学識者、労働問題研究者などからも評価・認識されている。</p>
<p>備 考</p>	